

令和5年3月28日

三木市議会

議長 堀 元子 様

総務文教常任委員会

委員長 古田 寛明

行政視察報告書

下記のとおり委員会行政視察を実施いたしましたので、会議規則第107条の規定により報告します。

記

1 参加者

古田寛明（委員長）、新井謙次（副委員長）、大眉 均、草間 透、内藤博史、堀 元子、中尾司郎、穂積豊彦
（委員外議員）

板東聖悟、大西秀樹、松原久美子、岸本和也、藤本幸作、初田 稔

計14名

2 視察内容等

日 時		場 所	内容及び対応者
1月25日	13:20 ～ 13:40	緑が丘小学 校前の市道	デジタルセンサーを活用した実証実験 (対応者) 縁結び課長 成瀬 拓生 縁結び課長地方創生係 平野 育 縁結び課長地方創生係 村上 凌太
	14:00 ～ 14:45		緑が丘小学 校 タブレット端末の活用状況 (対応者) 緑が丘小学校長 善村 龍昭 緑が丘小学校教頭 福山 育男

15:00 ～ 16:00	兵庫県動物 愛護センタ ー	動物管理・動物愛護事業の現状 (対応者) 兵庫県動物愛護センター支所長 池水 千枝
---------------------	---------------------	--

3 所感

(1) デジタルセンサーを活用した実証実験について

デジタル田園都市国家構想の取組として、民間事業者と連携した交通事故が多い交差点等でのデジタルセンサーを活用した交通事故発生防止のための実証実験について視察した。

視察では、発信器を内蔵したシューズを交差点に設置したセンサーが感知して、交差点に設置されたスピーカーから音声を発して歩行者、車両等に注意喚起するシステムを確認した。

現状のシステムでは、歩行者、自転車等には注意喚起できるが、スピーカーからの音量がさほど大きくないため、窓を閉めた車両であれば認識しづらい状況で、子どもたちの交通事故発生を防止するには音量調整や視覚的な装置（パトライト等）の併設など改善が必要である。また、本実証実験で新たに使用された技術や、収集されたデータを応用した今後の取り組みにも注目していきたい。

(2) タブレット端末の活用状況について

2年生の国語科及び5年生の社会科の授業を視察した。

視察では、いずれの学年においても、タブレット端末の操作が一定程度できており、2年生であってもコラボノート（意見共有アプリ）を活用した学習活動ができていることには関心させられた。

また、5年生では、自らネット検索を進めており、主体性を育みつつ機器の効果的な活用も進んでいると感じられた。

一方で、児童らの机の上は、教科書・ノートにタブレット端末が加わり、作業のスペースがなく、機器を落下・破損させてしまう恐れがあり、机の天板の大型化又は機器のみでの学習に変えるなど、検討が必要である。

最後に、教員には学習の効率、効果を高めるための指導技術のさらなる向上に期待したい。

(3) 動物管理・動物愛護事業の現状について

兵庫県動物愛護センターの管理棟及び啓発棟の施設及び実施している

「動物管理業務」「動物愛護業務」に関する取組みを視察した。

動物管理に関しては、犬の収容・引取り件数減少（R3、35頭）に対して、猫の引取り件数（R3、248頭）が多いという現状で、引き取った犬猫の譲渡においては、様々な理由からその件数は限定的であり、多くは殺処分されていた。

また、県では将来にわたって「飼い主のいない猫」を増やさないため、飼い主が猫の特性を理解して正しい飼い方を実践できるよう啓発を行い、飼い主がその責任を果たすことで問題解決を進めており、現時点でTNRには積極的でないように感じられた。

視察を通じて、動物愛護センターの取組や役割など、動物愛護に関する情報発信をさらに行って、動物に関する理解をさらに深めていくことが必要であると感じられた。